

令和3年度第1回北海道立近代美術館協議会 議事録

1 日 時 令和3年10月12日(火) 10:00~12:00

2 会 場 北海道立近代美術館 2階 映像室

3 出席者 【委員】大石朋生、北村清彦、佐藤誠之、霜村紀子、中井令、三澤祥子、森長弘美、
湯浅万紀子、吉崎元章、若原勝二 計10名(欠席 飯田知男)

【事務局】近代美術館：立川館長、櫻井副館長、苫名学芸副館長、豊村総務企画部長、
中村学芸部長、久米学芸統括官、今村総務企画課長

三岸好太郎美術館：齊藤館長、五十嵐副館長

4 傍聴者 なし

5 議 題

(1) 美術館の概要について

(2) 令和2年度事業実施報告及び美術館評価について

(3) 令和3年度運営計画について

6 議 事

館長挨拶、委員及び美術館職員紹介、会長及び副会長選任の後、会長の進行により議事に入る。

(会長：北村委員 副会長：吉崎委員)

(1) 美術館の概要について

ア 事務局から資料1-1及び1-2により説明

イ 質疑・意見

【北村会長】

両館の概要を説明いただきました。今の説明に関して、ご質問やご意見等ございましたら、お願いいたします。

【吉崎委員】

新しくなったホームページを見て、本当によくできていて、いろいろと話をしながら作られ

たのではないかと思いました。美術館がどういうことをしているかということ発信していくことは大切だと思います。

その中で一番いいと感じたのは、調査研究のページに、学芸員一人一人が担当した展覧会や執筆の記載があることです。美術館の良し悪しには、学芸員の質が大きく作用するので、美術館は、学芸員の活動をアピールしていくことが大切だと思っています。さらに、外部で行った展覧会の企画・講演・執筆なども掲載しており、美術館以外でも、北海道の文化に貢献するような活動もしているということを伝えるのは本当によいことだと思います。

【北村会長】

事務局からの概要の説明の中で、予算の話や収蔵庫が手狭であるという話がありましたが、美術館としては、今のような問題があると認識されているでしょうか。

【立川館長】

はじめに、ホームページについてですが、今、美術館で何をやっているか調べようとしたときなど、以前のホームページは非常に見づらかったので、すぐに変えるように依頼したのですが、予算措置が必要なこともあり、結果的に2年近くかかったという経緯があります。今回のホームページは、よくできていると思っています。

当館の課題としては、2点あります。

基本的に維持管理費や人件費は、道が経費を負担していますが、活動費や展覧会の経費は、美術館の収入で賄うというのが原則となっており、収入をあげないと展覧会や他の活動ができないという、かなり窮屈な状態です。当館の場合、特別展はマスコミと共同開催ですが、その収入は、基本的にはマスコミに入り、美術館の収入にはなりません。美術館の収入になるのは、コレクション展と道単独の特別展の収入だけですが、それだけでは限界があり、厳しい状況となっています。

施設関係は、老朽化が進んでおり、可能な限り点検して整備していますが、経費がかかるため、本庁に相談しながら少しずつ進めている状況です。

【北村会長】

概要の説明資料の19ページで、観覧者数の推移が出ていますが、今年はコロナの問題もあって、常設展の人数も伸び悩んだのだと思います。

先ほど、委員の皆さんの自己紹介の中で、美術作品は観光のための資源になりうるという話や、一つの作品を見るために京都まで出かけて行ったという話がありました。特別展で人が多く入るのは結構なことですが、美術館の核となるのはコレクションですので、「この作品がこの美術館にある」というプレゼンスのようなものがより一層発揮できれば、常設展の人数も期待できるのではないかと思います。近代美術館には、シャガールやガラスの美しい作品が目玉としてあるということが、ホームページ等でもっと積極的に発信できれば、また、三岸好太郎美術館も、いろいろな工夫がされているということがわかるような形で情報発信が進められるとよいと思っています。

他に御意見はございますか。

【佐藤委員】

当機構も同様に、収入によってはやりたい事業ができないという状況にあります。美術館がもとも持っている美術品を見ていただくことには経費がそれほどかからないので、観覧者数が増えれば間違いなく収入に繋がるだろうと思います。

また、当機構は、北海道の観光素材として、美術館の情報を、道民だけでなく海外や国内の方にも広く提供したいと考えています。先ほど、美術館の作品が商品のラベルに使われているというお話がありました。道民や市民に対する公的な美術館としての役割があるとは思いますが、もう一つの役割として、企業が美術館の美術品や庭や建物全体を使って何か事業を行いたいという時に協力し、そこから対価を得ることができるとするならば、今後、北海道の観光素材、教育素材の一つとして、活用させていただければありがたいと思っています。

それから、さきほど吉崎副会長がおっしゃったとおり、学芸員の質が美術館の質を高めるというのは、全くそのとおりだと思っています。美術館に来た際に、学芸員に案内してもらえたらもっといいのにと誰しも思っていると思うので、それを仕組みで解決できないでしょうか。例えば団体や

グループで申し込むと、学芸員が専属についてくれて、その代わり対価が発生する、などということができれば、ご検討いただきたいと思います。

【北村会長】

いろいろと新しいことを提案されていますが、実際に作品解説のボランティアをされていた若原委員いかがでしょうか。

【若原委員】

3年ほどボランティアで解説をしていましたが、その時に感じたことをお話しします。

やはり、美術館の代表的な作品を目当てに来るお客様もいて、その時に御覧になれないと残念がっていました。貸出中のこともあり、展示方針によって展示していないこともあるので、展示されるスケジュールをお伝えするようにしていました。

解説は主にボランティア（ギャラリー・ツアー：火～土 1日3回）が行っており、学芸員は週に1度のミュージアム・トークをやることもあり、お客様にも喜ばれています。大体はボランティアの解説で足りていますが、専門的な話を聞きたい方やグループなどには、学芸員が対応する方がよいと思います。そのあたりは、美術館側のお考えも伺いたいと思います。

【北村会長】

ほかにいかがですか。

【中井委員】

コレクションの生かし方ということで、私は、絵とは一回観ればよいものでも、美術好きの人だけのものでもなく、心の拠り所になるものであると思っています。毎回絵が変わるのではなく、一つの絵が必ずここにあって、それを観に行くと勇気や元気をもらえる、というような力が絵にはあり、特に、三岸好太郎の絵にはそういう力を感じています。絵にパワースポット的な役割ができれば、毎週その絵を観に来るといったような方が増えて、もっと集客につながるのではないかと考えています。これについては、伝え方など、何か工夫の仕方があるのではないかと考えています。

【北村会長】

もっともな御意見だと思います。おそらく、一般の方に美術館について聞いてもほとんどの方はあまり関心がないというのが実情だろうと思います。

森長委員、鑑賞という観点で、どのような工夫をすればファンを増やすことができるでしょうか。

【森長委員】

学校の立場から言いますと、道内の小学校では、図工の専科教員が少なくなっており、中学校も美術教員が少ないため、地方では、一人の教員が複数の市町村を掛け持ちしている教員や、免許外教科担任として教えている教員がたくさんいらっしゃるという現状があります。その中で、拠り所になるのは、近代美術館が作成しているアートカードで、学校に貸し出ししていただいて、授業やゲームをしたりとお世話になっています。道内の美術館でも作っていると思いますが、全道の絵画サークルや研究会に対して、カードや映像を貸し出して、どんどん子供達に見せて、絵は描けないけど観るのは好きだよ、という将来の美術ファンを作る工夫をしていただきたいと思います。

【北村会長】

いろいろなチャンネルを使いながら、作品と接する機会を少しでも増やしていくことを地道にやっていくのがよいということですね。

PTAの方としてはいかがでしょうか。

【三澤委員】

美術館は、観光客や市外の方が訪れる場所ではあっても、市民はわざわざ行かないという現状があります。他の博物館でも、集客数が増えないから冬期間は休館するという話も聞きますが、集客数を増やすために、一般の方が関心を持つような工夫が必要ではないかともいつも思っています。

【北村会長】

外国と違って、日本の美術館は歓迎する雰囲気がないのかもしれませんが、北海道に来た時には、近代美術館や三岸好太郎美術館に行くという風土や雰囲気となるような下地を整えていければよいのではないかと思います。

(2) 令和 2 年度事業実施報告及び美術館評価について

(3) 令和 3 年度運営計画について

ア 事務局から資料 2 - 1 及び 2 - 2 により説明

【事務局から補足説明】

・先ほど、美術館の代表的な作品がいつでも観られるような展示について、ご意見をいただきましたが、作品によっては、長期間の展示が難しいものもあり、そういったことを考慮しなければならないという事情がありますので、御理解いただきたいと思えます。

・コレクションの活用ということでは、現在は、作品を商品のラベルにすることなどに対しては、料金はいただいております。そのことによって、近代美術館や作家のことを知ってもらうという金銭的なものだけではないメリットもありますが、料金については、今後検討する余地はあると考えています。

・施設の老朽化について、現在、補修工事の一部実施を進めながら、次年度にも実施を検討しているところです。設備の故障等については、迅速に対応すると同時に、未然防止に努めていきたいと考えています。

・近代美術館のリニューアルに関して。築 40 年以上たっており、施設の老朽化、収蔵環境の問題に対する課題というのが少しずつ出てきている状態です。これに伴い、令和 2 年度に行った長寿命化診断において、長寿命化改修は不可という結果が出ています。ただ、すぐに建て替えるということではなく、別途検討が必要な状況となっています。最近の北海道議会の答弁においても、改築等も含めた検討が必要であるため、幅広いご提案をいただく仕組みを整えながら、検討を進めるとされており、現在は、今後のスケジュールなどを検討している段階で、委員の皆様にお示しできるものがないという状況です。また、隣に知事公邸がありますが、そのあり方についても検討されており、公邸のあり方も含め、このエリアのあり方について検討を進めていくことになっています。この件については、今後、委員の皆様にも御意見を伺うこととなると考えています。

・当館の展覧会については、「近美コレクション展」と「特別展」があり、近美コレクション展は、今年は「コレクション・ストーリーズ」という大きなテーマで開催しています。収集方針をそのまま展示テーマに設定しました。収集方針というのが、当館コレクションの強みであるということです。コロナ禍による特別展開催が全国的にも困難になっている中で、自分たちの美術館のコレクションを、今まで以上に活用してお客様に楽しんでもらおうということで、このような展覧会を組みました。

イ 質疑・意見

【北村会長】

令和2年度の各館の評価は、自己評価でされているということですね。コロナ禍というこれまでにない景気の中で、入場者数、あるいは展覧会そのものも事業も中止を余儀なくされたり、大変だと思いますが、この先、コロナが収まったとしても、例えば、リモートなどをいろいろと活用して事業を行うことは、必要になってくると思います。コロナを契機にして、次の新しい美術館のあり方などを模索していくことが大事なのではないかと思っています。

大石委員、何か御意見はございませんか。

【大石委員】

収益の話についてですが、コレクション展の方に収益の中心があるということであれば、従来のファンを大事にするという美術館の使命はもちろん大切ですが、これからの美術という市場で見ると、多角的な戦略が必要になってくると思います。

最初に、ファンの掘り起こしを考える際に、観覧者数として外国人や道内・道外という内訳をチェックしているのか、また、子供の興味・関心を引くような戦略が必要になってくるのではないかと思いますので、そこをお伺いしたいと思います。

また、佐藤委員が提言をされていたように、賛助会員という概念は、これからとても重要になってくると思いますので、賛助会員に対して観覧しやすくするなど、何か提供できるものがあってもよいのではないのでしょうか。

最後に、ホームページはとても素晴らしいと思いますが、これからは、どれだけ閲覧者数が増えているのかを注視していかなければならないと思います。若い人たちは、SNSなどのツールを使いながら、付加価値で行動していることがあります。美術館が、今までファンではなかった人たちをどれだけ取り込めるかというのがこれからの収益にかかってくるのではないかと思うので、ぜひ努力していただきたいと思います。

【立川館長】

これからは収益にも力を入れていかなければならないのですが、どういう方が来館しているかという分析が不足していることは痛感しています。実際、外国の方の人数のカウントは目視で行っていますので、正確に把握しているとは言い難いところがあります。また、道内・道外の別はアンケートの回答により把握していますが、アンケートの回収率がそれほど多くないため、アンケート以外の分析の方法をこれから研究しなければならないと思っています。いただいたご意見については、今日は時間の関係で一つ一つにお答えできませんので、次回の協議会で美術館の考え方などを御回答させていただきたいと思います。

【北村会長】

霜村委員、同じ博物館の学芸員として、何かアドバイスなどがあればお願いします。

【霜村委員】

同じように集客に悩む博物館として、参考にさせていただきたいことがあります。まず立地ですが、個人としては非常に来館しやすい場所だと思いますが、一方で、大型駐車場などの団体旅行を受け入れる体制を知りたいと思っています。

また、例えば家族連れや女性同士など、どのような組み合わせや手段で来館しているのでしょうか。美術館に興味のない人にどうやって来館してもらうかというのが課題だと思っており、こちらは、知事公館や植物園など近くの色々な施設を含めた散策ルートや館内のカフェでのランチなどをオプションとして組み合わせることで、集客は可能ではないかと思っています。

また、団体客について、学芸員などの職員が来館者を出迎えることが望まれているというのは承

知っていますが、正直大変な負担だと思います。ただ、最初に出迎えて一言二言でも作品の説明をするだけで館の印象は大きく変わるところがありますので、その必要性はあると感じているところ
です。

そのため、例えばバスを利用できるのであれば、近隣とコースを組んで巡ることもできますし、この周辺には郷土資料館のようなものがないので、北海道の風土を生かしたアートを飾ることで、北海道の風土と歴史にも触れてもらえると思います。地方の博物館や美術館では、旅行者は地元の展示を見たいという要望があり、逆に地元の方は、教科書に載っているような作品も見たいという要望があります。近代美術館は、その2点をコレクションで兼ね備えており、それは強みだと思いますので生かしていけると思います。

また、このコロナ禍でコレクションをデータベースに全点載せたということも素晴らしいですし、それを展示に結びつけられるというこれまでの蓄積、それから学芸員の発想などが加わり、そういうことが実現できるのではないかと思います。

最後に、施設の老朽化はとても大変なことです。コレクションを守っていくことが美術館の一番の使命であり、コレクションを生かした上で展示活動や教育普及活動ができますので、知見のある方と協力し合ってやっていければよいと思います。

【北村会長】

有益な御助言だと思います。湯浅委員は、今回の委員の中で唯一、継続の委員となりますが、前回からの課題なども含めてまとめていただけないでしょうか。

【湯浅委員】

鑑賞者の開拓という観点で、観光や教育プログラムの充実など様々なアイデアが出てくると思いますし、ファンドレイジングに関しては、クラウドファンディングなど、新しい様々な手法も出てくると思いますので、ミュージアムとしての品性を失わない範囲で新しいチャレンジもしていただければと思います。

評価について、資料の各項目に評価BやCなどが入っていますが、評価は本当に難しいと思って

います。事務局から送付された参考資料を見ますと、目標値の設定について、過去5年間の最高値や過去5年間の平均値となっているものが多かったので、果たしてそれがいいのかどうかということも、議論できればいいと思います。常に右肩上がりを求められるのが世の中だと思いますが、適正値があり、自分が協議会委員をしております北海道博物館では、「健康値」という値を設定しています。まだ新しい評価方法であり、うまく機能してはいないかもしれませんが、適正値というものも意識した評価のあり方を模索しているところです。これから、皆様と一緒に議論しながら、美術館の理念やゴールに合った値は何か、それから、定性的な評価はどのようにすればいいかということなどを検討していただければと思っています。

【立川館長】

今日は時間がなく、評価についての議論を深められませんが、現在、評価システムの見直し作業を進めていますので、次回以降、評価システムについて議論する機会を設けさせていただきたいと思います。

【北村会長】

今日の会議では、多くのいろいろな提言が出ましたので、それを今一度、館の方で持ち帰ってご検討いただきたいと思います。

それでは、以上をもちまして本日の議事はすべて終了します。長い時間、御協議ありがとうございました。

【議事終了】

事務局から次回協議会の日程等について事務連絡を行い、全ての日程を終了。